

うな ちよう
雲 梯 町

古代は豊かな緑と森と

最古の歌集・万葉集に「真鳥住む卯名手（ウナテ）の神社（もり）の…」と雲梯が詠まれ、古代に早々と登場しています。

田んぼに水を引く溝を「ウナテ」といいます。雲梯町の南で曲がりながら流れる曽我川の水を、忌部町の西部に送り再び曽我川に還流させる支水路（溝）といったものが古代、この地にあったようです。

「雲」を「ウナ・ウネ」と歌で詠みます。「梯」に「はしご・すじみち」の意味がありますので、後の時代に「卯名手」から「雲梯」へ呼び変えられたものと考えられます。さらに補強するものとして、古い祝詞の「事代主命の御魂を宇奈提に坐せ」（出雲国造神賀詞）が残っています。また、この神をこの地でお祭りしたのが、雲梯町に鎮座している河俣神社だとする一説もあります。

真鳥が鷲（わし）のことを、神社（もり）が「こんもりと茂った森」のことを指します。古代の檀原を取り囲んでいた緑豊かな自然環境を、ほうふつと思いきさせる話です。